

Shizuoka Business Report

No.1464
11/20

旬／な／人

小原照光

株式会社 コハラ 代表取締役社長
焼津商工会議所 会頭

Company

File カンパニーファイル

一般社団法人 シヅクリ

オトナの休息时间

[焼肉] 芳龍 (ほうりゅう)

一人一人が新たな価値を生み出す時代に

これからの世の中は、第四次産業革命が進み、IoTやAIの登場によって技術革新が驚異的なスピードで進む。一方、日本ではアジア諸国の台頭や長引くデフレ、人口減少、少子

チック製品、金属加工製品をはじめとする工業用資材の卸商社で、75年前に(株)コハラ(旧コハラ商會)から独立して以来の再合体となった。 来年は、創立100周年を迎える。小原氏は、創業者の地域産業に貢献したいという思いを引き継ぎ、世の中の役に立つ会社であり続けることを第一に考えてきた。社是として掲げる『細心大膽』(細心の注意と緻密な計画のもとに大胆にことにあたる)のように細心の準備を進めてきた中で、当面の課題である働き方改革や人口減少、少子高齢化をチャンスと捉え、グループとして自動化・ロボット化を積極的に顧客に提案していく方針だ。小原氏は「理念を崩さず、生産財の商社として100年の歴史を生かしてエリアや事業領域の拡大を目指します。大切な地球とそこに住む人々の夢あふれる未来のために、新しいソリューションを見出し、しっかりとした目的・目標を持って101年目の新たなスタートを切る所存です」と語る。

焼津市の価値創造へ「美食のまちやいづ」のブランド化を

今年、焼津商工会議所が70周年の節目でもある。焼津市の産業活性化や商業振興に貢献するための長期的なプロジェクトの一つである「焼津水産ブランド」認定制度は、焼津市内で製造された魅力ある水産関連商品を認定し①ブランドHP上に商品紹介②市内の観光地や土産店などで

高齢化が進み、人手不足の時代がやってくる。小原氏は「生産現場では自動化と省人化が進み、特に安全面を考慮したロボットが世界を変えていくことが予想される」と話している。同社は産業用先端技術をさらに磨き、機械と人間の融合を進め、これからのモノづくりを支えていくと共に、それを生み出し実行するための財産である、人材育成を進めていく。環境が変化の中で、社員一人一人が社会に新たな価値を生み出す。そして自己変革に挑戦し、世の中の全ての情報や発想、技術をもとにさまざまなビジネスを革新する各分野のスペシャリストを育てていく。「これからの10年で世界は様変わりします。その中で弊社は常に先を走らなければなりません。それが弊社のミッション。Innovation in technologyであります」。



■略歴 小原 照光 (こはら てるみつ) 1952年7月、焼津市生まれ。日本大学三島高校、駒澤大学経営学部を卒業後に(株)山善へ入社。7年間の修行を経て、83年に家業である(株)コハラに入社。99年、同社4代目の社長に就任。2019年、焼津商工会議所の会頭に就任し現在に至る。趣味はゴルフ、旅行、盆栽、錦鯉。

販売などの販路拡大のほか、専門家による商品開発のアドバイスが受けられるなど、地場産品の商品力向上、販売力向上に貢献する。商品は「かつお」や「まぐろ」さらには「練り製品」「その他」に分類され、現在30社68商品が認定されており、多くの焼津市民と協力し進んでいる。また、今年4月に立ち上げた「美食のまちやいづ」プロジェクトは「過性のものではなく、地域の将来にわたる持続的発展のために考えられており、行政連携や民間活力を生かして焼津駅や焼津港エリアを軸にした賑わい拠点づくりを目指している。来年2月には第1回となるイベント開催を計画しており、継続的に開催することで認知度向上を図る計画だ。「世界一の美食の街」といわれるスペインのサン・セバスチャンを目標に、焼津市を日本一の「食材のまち」から「美食のまち」へ

の昇華を目指します。観光の三大要素は「食」「景観」「温泉」といわれています。食材を買って帰るだけの街ではなく、観光のブランド価値として「美食」のPRに注力します」。 アフターコロナの時代は「デジタル」と「グリーン」のキーワードに対応する動きが進むと予想される。同会議所が地元金融機関やIT関連事業所と連携して開催している「IT経営フォーラム」では、会員事業所や地域に対してIT・デジタル化への情報発信を行っている。時代が大きく変革する今、皆さまから信頼される商工会議所を目指して、働き方改革実践のためのデジタルシステム導入など、体制整備の対策に向けた情報発信や、新たなビジネススタイルや就業体制を進めるための「健康経営」への取り組みをさらに進めてまいります」。

細心大膽

ものづくり現場の生産性向上や技術革新をけん引する商社(株)コハラが100周年、地域の事業所の振興発展に努める焼津商工会議所が70周年の節目を迎えた。(株)コハラの4代目社長として、先を見据えた積極的な経営展開を行う小原氏は、地域産業に貢献するという理念のもと、現在は焼津商工会議所の会頭も務めている。これからのものづくりや地域産業振興について話を聞いた。

旬/な/人

小原照光

株式会社 コハラ 代表取締役社長 焼津商工会議所 会頭

(株)コハラが100周年、そして焼津商工会議所が70周年という節目!! 運命も努力には譲る、を胸に、それぞれの未来を切り拓く

人々の夢あふれる未来のために、新しいソリューションを見出す 1922年(大正11年)、創業者小原次郎氏が焼津市でエンジン部品や船具の販売を開始したのが同社の始まりだ。地域の産業に貢献したいという思いから、ディーゼルエンジンの修理だけでなく、炭鉱のベルトの原料を仕入れ、加工して売り歩き、モーターやプーリー、ベアリングと商品の幅を広げていった。その後、工具や伝導用品、管材、空圧・油圧・自動省力機器を主力商品に加えていき、60年には総合機械工具商へ。89年にはOA物流部門を主力商品に加え、総合商社に発展した。94年には工場自動化・省力化などの新分野に進出。07年には、板金や溶接、マテリアルハンドリング機器(生産拠点や物流拠点のモノの移動に関わる機器)の設計・製造を手掛ける(株)ナカジマテック(牧之原市)をグループ化した。(株)ナカジマテックの技術を得たことで、これからのものづくりを支えていく企業として正式にFA・ロボットシステムインテグレーション協会のロボットSociety会員として承認を受けた。本社はショールームを建設し、数多くのロボットを並べ、客先により良い提案ができる環境を整えた。そして今年9月には(株)南部(東京都)をグループ化。(株)南部は、ゴム製品やプラス